

平成27年度天皇杯受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

都市近郊の伝統的な循環型農法を継承する住民参加型のむらづくり

○集団等の名称 三芳町川越いも振興会（代表 伊東 藏衛）

○所在地 埼玉県入間郡三芳町

○受賞理由

・地域の沿革と概要

振興会の活動する上富(かみとめ)地区は、東京日本橋から30km圏内、埼玉県三芳町の西部に位置し、総世帯数1,466戸のうちサツマイモ、野菜、茶等を栽培する農家が113戸で、専業農家の占める割合は約65.5%である。

上富地区を含む三富新田では、江戸時代中期の開拓で1戸当たり約5ha(約72m×675m)の短冊状の細長い土地が配分され、その地割は、道路に面する側から屋敷地、耕地、「ヤマ」と呼ばれる平地林の3つに区分されている。

・むらづくり組織の概要

- ① 寛延4年(1751年)頃に上富地区周辺にサツマイモが伝わって以降、平地林からの落ち葉を堆肥としてサツマイモを栽培し、販売して得た資金で平地林を守るといふ循環型農法が確立していった。
- ② 昭和30年代以降、化学肥料の普及、住宅の開発、流通関連営業所等の進出などによって堆肥の利用や平地林の減少が見られるようになり、地域の人は伝統的な農法に支えられたサツマイモ産地の存続に危機感を抱くようになった。
- ③ 昭和50年頃に直売を始めた4戸の農家が中心となり、平成4年に「三芳町川越いも振興会」を立ち上げ、現在は29戸の会員がサツマイモの高品質化と農業後継者の育成に取り組んでいる。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① サツマイモについて、「富(とめ)の川越いも」の商標登録等によりブランド化を図るとともに、全国に先駆けたウィルスフリー苗の導入、明治初期に県内で発見された「紅赤(べにあか)」の優良系統選定等により、品質の向上と安定化に寄与している。
- ② 直売による収入の安定化等によって、後継者世代が多く確保されている。その世代は、都市住民に循環型農法を伝えるための活動や新たな作物のブランド化に取り組む組織を立ち上げ、都市住民と行う落ち葉掃き体験等の各種取組を実施している。
- ③ 県内の造り酒屋等との共同により開発した芋焼酎をはじめ、芋ようかん、サツマイモアイス等を製品化するほか、地区内の農家が経営するカフェにおいてサツマイモを使った料理を提供するなど、多様な6次産業化を実現している。

(2) 生活・環境整備面

- ① いも振興会の公募によって徐々に定着した落ち葉掃きや、毎年10月に開催して県内外から600名以上が参加する世界一のいも掘りまつりなど、都市住民との交流を積極的に行っている。
- ② 循環型農法を守り続けることにより、平地林ではレッドデータブック記載の植物7種と昆虫18種が確認されるなど、豊かな生態系の保全につながっている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

振興会の取組は、都市住民に対する食や農への理解を深めつつ、都市近郊特有の厳しい環境においても伝統的な循環型農法を守り、農業収益の向上や環境の保全を実現するものであり、むらづくりのモデルとなり得る事例である。